

2019年5月5日

**DENSO KOBELCO SARD LC500
第2戦富士、激闘の4位フィニッシュ**

SUPER GT 第2戦富士レポート

2019 SUPER GT 第2戦「FUJI GT 500km RACE」(5/3-4)**富士スピードウェイ(1周4.563km)**

入場者数：予選35,800名、決勝56,000名 合計91,800名

5月4日（土・みどりの日）、新元号「令和」最初の大会となるSUPER GT第2戦「FUJI GT 500km RACE」の決勝が大観衆を前に行われ、5番グリッドから剛毅果断に攻めていったDENSO KOBELCO SARD LC500は、スタート直前の降雨でセーフティカースタート後、スタート担当したヘイキが序盤に混乱の中で一時順位を下げたが、レース再開後に驚異の追い上げで見事なリカバリー。42周目からドライブした中山も好ペースで前を追い詰め、2度に渡るTGR(1)コーナーでの華麗なオーバーテイクなどを披露して4位に浮上する速さを見せた。79周目から再びステアリングを握ったヘイキもトップペースで追い込みをかけると94周目に3位表彰台圏内を奪取。だが後方から追いついてきた1号車と熾烈なバトルの末に105周目TGRコーナーでその座を明け渡し、激闘の4位フィニッシュとなった。

ドライバーポイントでは8点を獲得、チームポイントでは11点を獲得（計14点）し、それぞれランキング6位に浮上した。次につながる手応えを感じて迎える第3戦は5月25日（土）・26日（日）に鈴鹿サーキットにて行われる。

■公式練習走行

開幕戦は厳しい降雨のコンディションの中で最後尾から追い上げを見せたDENSO KOBELCO SARD LC500。新元号「令和」最初の大会となるゴールデンウィーク恒例開催の第2戦は、霊峰富士の麓にある富士スピードウェイが舞台。公式予選はノックアウト方式(Q1、Q2)で、決勝は約3時間に及ぶ長丁場の500kmで争われる。ドライバー交代を伴うピットストップは2回が義務付けで、我々のウェイトハンディは0kgとなる。コースは、1.5kmにおよびロングストレートと迫力のTGRコーナーでの先陣争い、続く各コーナーでの高速バトル、接触が起こりやすいダンロップコーナーでのブレーキング競争、つづら折りの峠道のような上りの

のセクター3などバラエティに富んだダイナミックなコースで歴史的にも幾多の名場面が生まれてきた。

チームは昨年同大会で2位表彰台を獲得、今年3月末に当地で行われたGTA公式テストでは2日間総合で3番手タイムをマークするなど相性の良いサーキットだけに、ここで流れを引き寄せてシーズンの序盤を良い形に造り上げていきたいところ。コース上での戦い、500kmの長丁場ゆえに天候や運も含めてレース戦略&チーム総合力によって大きく勝負が左右される第2戦富士。チーム一丸となって剛毅果断に勝利を狙っていった。

3日（金・憲法記念日）午前中の公式練習走行は、まさに五月晴れで気温20度/路面温度29度のコンディション。8時50分から混走セッションが開始され、ヘイキが、まずはソフト系のドライタイヤを装着してコースイン。クルマのセット自体には何も問題なく順調な持ち込みと思われたが、数周走行後に車両不具合が発生してしまい、原因の確認と調整のため20分以上ピットに留まることに。パーツ交換などを行い、9時45分に再度コースインして1分29秒858の14番手タイムを刻む。次にハード系のタイヤを装着してフィーリングチェックした後に、中山と交代してフィーリングの良かったソフト系のユーズドタイヤを再び装着してクルマとタイヤの確認を行った。この混走セッションは1分29秒858の14番手に。10分間のGT500単独セッションでは、中山がアタックシミュレーションを実施し1分29秒221のタイムをマーク。公式練習走行ではトータル33週の走行で11番手となった。サーキットサファリでは決勝状態でのクルマのチェックをピット作業の練習を間に入れながら13周行ってQ1への準備を終えた。

■公式予選

■Q1：GT500初アタックの中山が健闘の7位でQ1突破

3日（金）午後も雲が出てきたが快晴に。気温22度/路面温度36度となった15分間の公式予選Q1。残り8分間を切ってコースインした中山は、公式練習走行でのタイヤの状態やタイムからソフト系タイヤを選択。4周目まずまずの1分28秒271の4番手タイムを刻んだ後、5周目にアタックに入った中山はセクター1で好タイム、セクター2でも自己ベスト上回る好タイムで通過すると、セクター3も上位タイムを刻んで駆け抜けて1分28秒190とQ2進出圏内を確保。自身GT500初予選アタックで健闘の7位でQ1突破を決めた。



■Q2：ヘイキが2周連続アタック敢行で5番グリッドを獲得

10分間のQ2開始時、気温21度/路面温度33度と路気温が若干下がったコンディション。残り8分間を切ってコースインしたヘイキは、同じくソフト系タイヤをチョイス。4周目にアタックに入った気合いのヘイキはセクター1でQ1を上回るタイム。だがセクター2のコカコーラコーナー出口で痛恨の四輪脱輪を喫してしまう。セクター3でベストを刻んで1分27秒588の3番手タイムを刻むも、このままだとベストタイム抹消となってしまうため、2周連続アタックを敢行。セクター1で僅かに遅れたが、セクター2で赤マークをつける驚異の26秒台をマーク。セクター3も好タイムで駆け抜け、1分27秒673と順位を保つセカンドベストタイムを叩き出し、結果ベストタイム抹消も5番グリッドを獲得することとなった。



■決勝

■ウォームアップ走行

4日（土・みどりの日）は、お昼頃に雲が広がりだし曇天に。12時55分から始まったスタート前20分間のウォームアップ走行は、気温19度/路面温度26度のコンディション。まずスタートドライバーを努めるヘイキがスタートタイヤと同じ種類の公式練習走行で装着したドライタイヤでコースイン。8周を走り終えピット作業のシミュレーションを行い、中山と交代。Q2で装着したタイヤに履き替え、決勝セットの確認走行をトータル13周にわたって行った。なお決勝スタート指定タイヤは、QA(Q1装着)タイヤと発表されている。

■決勝レース

第1スティント：ヘイキが一時順位を下げるも見事なリカバリー

4日（土）14時30分決勝スタート時点は気温18度/路面温度25度。スタート直前にこの週末初めての降雨のためセーフティカー（SC）スタートが宣言され、2周の隊列を組んだSCランの後、グリーンフラッグとともにレースが本格的にスタート。5番手から剛毅果断に攻めていったスタート担当のヘイキが序盤に混乱の中で一時9位にまで順位を下げてしまう。そして、雷雨となり雨量の多さに13周目にSCが再度介入し、15周目に赤旗中断となる波乱。コンディションの回復とともにレースが再開され、息を吹き返したかのように驚異の追い上げで順位を上げていくヘイキは、見事なリカバリーで38周目には5位に順位を戻し、41周を終えて最初のピットインとなった。



第2スティント：中山が華麗なオーバーテイクを披露し速さを見せる

素早いピットワークで前との差を詰めると、42周目からドライブした中山も好ペースで前を追い詰めいく。58周目に12号車、65周目に17号車、68周目に1号車を抜き、2度に渡るTGR(1)コーナーでの華麗なオーバーテイクなどを披露して4位に浮上する速さを見せた。公式予選に続き、決勝でも躍動感あふれる走りで見事に実力を本番で発揮してみせた中山。ピットからはオーバーテイクの度に歓声が上がった。タイヤマネジメントも素晴らしく、最後までペースを落とさずに78周目に再びステアリングをヘイキに託すべく、ピットインとなった。



第3スティント：ヘイキが熾烈なバトルを展開し一時3位を走行

2回目のピットインもトップの素早さでピット作業を終え、前とのギャップを削ってヘイキを送り出すチームワークを見せると、再びステアリングを握ったヘイキもトップペースで追い込みをかけていき、最終スティントに1号車とバトルを繰り広げる。一進一退の攻防戦から引き離しに成功すると、94周目にはペースの落ちた3号車を捉えて3位表彰台圏内を奪取。だが後方から再び追いつけてきた1号車と熾烈なバトルが再度展開される。10周ほどの攻防戦の末に最高速10km/hも上げてきた1号車に105周目TGRコーナーでその座を明け渡すことに。スタートから終わりまで絶え間なく続いた熾烈な激闘の末にDENSO KOBELCO SARD LC500は、4位フィニッシュとなった。

ドライバーポイントでは8点を獲得、チームポイントでは11点を獲得（計14点）し、それぞれランキング6位に浮上した。次につながる手応えを感じて迎える第3戦は5月25日（土）・26日（日）に鈴鹿サーキットにて行われる。





■ヘイキ・コバライネン

「予選はユウイチが頑張ってくれたので自分もという気持ちでマキシマムアタックでワイドに行ってしまった2周連続のアタック。良い結果に転がって安心したよ！決勝は開幕と同じように難しいコンディションだったけど再開後は良いペースで走れた。それにしてもユウイチは決勝でも頼もしかった。3台も抜いてきてくれたからね！次の鈴鹿へはチームとしてまだやるべき事はあるけど期待しておいて欲しいね」



■中山 雄一

「予選Q1を担当することになり、本当に緊張しました。強豪ひしめくなか無事にQ2に進出でき、ホッとしました。決勝は悔しい4位になりました。GT500初表彰台まであと少しでした。チームのオペレーションは完璧でクルマのフィーリングもとても良かったです。難しいコンディションを乗り切ってくれたヘイキさんにも感謝です。次の鈴鹿では更に一步上に上がれるように頑張りますのでご声援よろしくお願いいたします」



■監督 才木 祐二

「公式練習走行で問題がありましたが、その後は良い流れで行くことができました。惜しくも表彰台を獲得できなかったのは残念でしたが、今回も幾つか修正を加えながらも新陣容での手応えを感じられ、次の鈴鹿につながる良いレースにできたと思います。さらに良い方向に進めるように鈴鹿に向けて準備を進めていきます。引き続きご声援のほどよろしくお願い申し上げます」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	WH
1	23	MOTUL AUTECH GT-R	松田 次生／R.クイントレツリ	*R 1'26.871	17
2	37	KeePer TOM'S LC500	平川 亮／N.キャシディー	*R 1'27.105	0
3	12	カルソニック IMPUL GT-R	佐々木 大樹／J.ロシター	*R 1'27.289	11
5	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	H.コバライネン／中山 雄一	* 1'27.673	0

*タイムはQ2ベスト 天候：晴れ、コース：ドライ

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	38	ZENT CERUMO LC500	立川 祐路／石浦 宏明	3:40'46.358	110
2	23	MOTUL AUTECH GT-R	松田 次生／R.クイントレツリ	+19.693	110
3	1	RAYBRIG NSX-GT	山本 尚貴／J.バトン	+44.890	110
4	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	H.コバライネン／中山 雄一	+45.809	110

天候：雨のち曇り、コース：ウェット～ドライ、4.563km×110Laps

■Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	23	松田／クイントレツリ	24.5
2	38	立川／石浦	21.5
3	8	野尻／伊沢	12
6	39	コバライネン／中山	8

Point standings after Rd.2

■Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	23	NISMO	28.5
2	38	CERUMO	27.5
3	8	ARTA	17
6	39	LEXUS TEAM SARD	14

Point standings after Rd.2

■Partners

TOYOTA

豊田自動織機

TOYOTA
FINANCIAL SERVICES

INOS

GenB
The Geometric Builder

KARL STORZ ND Tec

Altair

MonkeyFlip

LEXUS

AW
AISIN AW

TENNECO

ADVICS

中京化成工業

SALOMON
THE RIGID

LG

admic

Racing Development
TRD

JTEKT

千葉トヨペット

小松開発工業

MIZUNO

SUUNTO

**MAL
TOOLS**

Kobelco Steelers
KOBELCO STEEL RUGBY CLUB

BRIDGESTONE

豊田合成

豊田通商

JMS

BBS

ATOMIC

**MAKE
WINNER**

Paralym Art
競馬・モータースポーツを応援しています

DENSO

KITO

**FUJIMAKI
GROUP**

SQUARING

MOTUL

EBBRO

**GruppeM
Racing Inc.**

Paralym Art
競馬・モータースポーツを応援しています

KOBELCO

進和

林テレンプ

ALI
ALUMINUM INDUSTRIES

FLEX

hp

UNIMAT LIFE

■情報参照先

- サード公式サイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : <https://twitter.com/LEXUSRACINGSARD>
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/lexus_team_sard/
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp